



# 誰でも観れる宮城県内における淡水魚の観察ポイント

久保田龍二（シナイモツゴ郷の会）

本報告では、誰でも観れる淡水魚の観察及び写真撮影という観点で、宮城県における淡水魚の遡上・産卵ポイントを幾つかご紹介いたします。

## 【梅田川のマルタウグイ】

### マルタウグイの観察ポイント



梅田川



産卵のため大挙して遡上



産卵場（礫底の瀬）



産卵シーンは *Exciting!*

マルタウグイ（正式和名はマルタ）。ウグイ（地方名ハヤ）という魚は一般的に良く知られていますが、マルタはウグイの近縁種で婚姻色などの特徴が出るか、室内同定しないとウグイとの判別が難しく魚類調査員泣かせの魚種でもあります。また、ウグイよりも大型になり成熟個体は 50cm 程になりますので大挙して川へ遡上している姿はまるで鮭のようです。

観察ポイントは、仙台市の東部を流れる都市河川の梅田川です。周辺はマンションなどの住宅地や工業団地となっています。

観察時期は写真のとおり菜の花が綺麗なGW前後です。産卵のために大挙して沿岸や河口部から河川中流部まで遡上してきます。

産卵場所は比較的細かな礫で構成された瀬で、産卵は集団で行われ、波しぶきを立てながらメスの放卵に複数のオスが放精するという魚類の産卵では良く見られるパターンですが、マルタの場合は朱色の婚姻色に染まった大型個体が浅瀬でバッシャンバッシャンと大騒ぎの産卵シーンはかなり *Exciting* なものです。ゴールデンウィークの頃は天候も良く日差しも強いので写真撮影には絶好の気象条件です。しかし、2016年、2017年では産卵シーンを確認することが出来ましたが、

2018年、2019年と2年連続で時期を逸して産卵シーンが見られておりません。早いのか？遅いのか？近年は毎年天候の傾向が変わるので生き物歳時記も年によってずれが大きくなっている気がします。

## 【牡鹿半島のシロウオ】

### シロウオの観察ポイント



牡鹿半島の小河川



大挙して遡上するシロウオ



シロウオの産卵孔



産卵孔にいたシロウオ

シロウオはシラウオとよく混同されますが、シロウオはスズキ目ハゼ科で、シラウオはサケ目シラウオ科で全く別種です。一般には沿岸で漁獲されるシラウオがメジャーでシロウオが分かる方はかなり魚ツな方だと思います。このシロウオも海に生息し、春に産卵のために川に遡上（やはり5月）する4cm程の小さな回遊魚です。

観察ポイントは、牡鹿半島南岸の小積浜という地域にある小河川です。たまたま仕事の帰りに川をのぞいたところ、シロウオが大挙して遡上していました。これは！と思い川を歩いてみたところ、見つけました。産卵孔！（産卵のための巣穴）。今のところ私情報ではここが宮城県の南限となっています。この河川は津波の被害を受け、河口部では復旧工事が行われていますが自然災害や工事にめげず産卵を継続していました。やはり野生生物は自然の変動には強いんですね。しかし人為的な変革には弱いと思います。

宮城県内では南三陸町歌津の伊里前川がシロウオ漁で有名ですが、ここも震災により河川が打撃を受けましたが震災後も遡上が確認され、漁も復活しています。

### 伊里前川のシロウオ漁



震災前：2010年



震災後：2015年

## 【北上川の Ayu（春）とサケ（秋）】

### Ayuの観察ポイント



春の鵜波洗堰



大挙して遡上する若鮎



魚道内で跳ねる若鮎



採捕されて上流へ売られる

最後は宮城県最大の一級河川である北上川です。遡上のタイミングは、春の鮎（Ayu）と秋の鮭（サケ）です。場所は旧北上川と北上川（追波川）に分流する鵜波洗堰です。この堰は昭和7年に竣工し、日本の分水堰技術黎明期に建設された希少な建築物であることから、平成16年に北上川分流施設群の一つとして土木学会選奨土木遺産に認定されています。

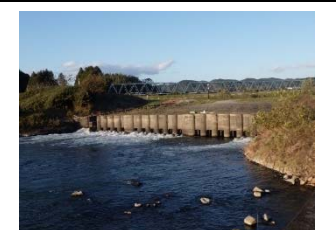
Ayuは、年魚と呼ばれ一年で一生涯を終える魚です。春に前年秋に産まれた若鮎が海から河川へと遡上し、中流域の清流で良質なコケを食み（はみ）大きく生長します。そして秋にやや降下して浅瀬で産卵し一生涯を終えます（この降下の習性を利用して捕えるのが梁漁です）。孵化した仔魚は流れのままに川を下り、やがて海にたどり着き沿岸域である程度成長して翌春に川へと遡上します。さて、観察ポイントに戻りますが、鵜波洗堰の右岸側に魚道が設置されています。堰からの流れは激流で若鮎は上れないので、大挙して魚道に向かいます。ところがこの魚道には網が設置されており、堰上まで行けないようになっています。魚道に集まったAyuはここで地元漁協により採捕されます。そして上流の漁協（岩手？）へ売られていきます。盛岡あたりで放流されるのでしょうか。Ayuにとっては車で運んでもらえるので良いのか悪いのか、どうなのでしょう？

続いては、秋のサケをご紹介します。

サケ（通称：シロザケ）の遡上は宮城県内では9月中旬頃から始まり概ね年末くらいまで続きます。さて、この鵜波洗堰ですが堰は暗渠になっており写真のとおり堰下は激流になっています。前述のAyuは上れません。しかしサケは遊泳力があるため、この堰の激流を上って行きます。そしてこの堰下の激流で「ふぁいとぉ～、一発あ～つ！」みたいな感じでジャンプをした後に気合を入れて上って行きます。このジャンプの瞬間がシャッターチャンスなのです。ジャンプするタイミングは分からないので、ひたすらカメラのファインダーを覗きながらジャンプした瞬間に連写です。また、堰下にはサケが集まるので、地元の漁協が巨大なタモ網でこれを捕えます。伝統漁法ではないのですが、私のなかでは秋の風物詩となっております。

ということで、今後も淡水魚の観察ポイントを探し求めてまいりたいと思っております。

### サケの観察ポイント



秋の鵜波洗堰



激流に挑む鮭



鮭の捕獲風景（秋の風物詩）



捕獲された秋鮭（南部鼻曲り）

